

建築工事施工計画報告書

建築基準法第12条第5項の規定に基づき、下記のとおり建築工事施工計画を報告します。
この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

令和〇〇年〇〇月〇〇日

(宛先) 大田区長

郵送日を記入してください。

代表となる工事監理者 住所 東京都〇〇区〇〇 〇-〇-〇 電話 03 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇

会社名 〇〇設計株式会社 (一)級建築士事務所(都知事)登録第(〇〇〇)号
氏名 〇〇 〇〇 (一)級 建 築 士(大臣)登録第(〇〇〇)号

工事施工者 住所 東京都〇〇区〇〇 〇-〇-〇 電話 03 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇
会社名 〇〇建設株式会社 建設業の許可 大臣・知事〇〇 第(〇〇〇)号
氏名 〇〇 〇〇
(法人にあっては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

(1) ~ (17) は確認申請書の内容と統一させてください。

(1) 工事現場	①名称	(仮称) 〇〇工事		1 棟	③工事の種類	新築・増築・改築
	②所在地	大田区 〇〇 〇-〇-〇		住居表示を記入してください		
(2) 建築主	氏名	〇〇 〇〇	住所	東京都〇〇区〇〇 〇-〇	電話	03 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇
(3) 代表となる設計者	氏名	〇〇 〇〇	所属会社	〇〇設計株式会社	電話	03 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇
(4) 構造設計者	氏名	〇〇 〇〇	所属会社	〇〇設計株式会社	電話	03 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇
(5) 現場代理人(所長)	氏名	〇〇 〇〇	現場事務所	〇〇建設株式会社	電話	03 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇
(6) 品質管理責任者	氏名	〇〇 〇〇	所属会社	〇〇建設株式会社	電話	03 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇
(7) 階数	地上 〇 階・地下 〇 階 塔屋 〇 階	(8)建築面積	〇〇 m ²	(9)延べ面積	〇〇〇 m ²	
(10) 高さ	軒高 〇〇 m 最高 〇〇 m	(11)確認済証交付機関	株式会社〇〇			
(12) 確認・計画通知、年月日及び番号	令和〇年〇月〇日 第 〇〇〇〇〇 号					
(13) 計画変更年月日及び番号	令和〇年〇月〇日 第 〇〇〇〇〇 号(変更内容は別紙)					
(14) 構造計算の方法	(X)ルート1-()・ルート2-()・ <u>ルート3</u> 限界耐力計算・時刻歴応答解析 (Y)ルート1-()・ルート2-()・ <u>ルート3</u> その他()					
(15) 構造	RC造・WRC造	〇階から 〇階まで	(16) 使用部位	PCa・HPCa	(15) のその他構造・(16) は使用している場合のみ記入してください。	
	SRC造	階から 階まで		PC		
	S造	階から 階まで		CFT		
	その他構造(PCa等)	階から 階まで				
(17) 認定材料	コンクリート	(認定材料名・認定番号)			※ 受付欄	
	鋼材等	法第37条第2号の大臣認定材料(高強度せん断補強筋等)を使用する場合は、材料名、認定番号を記入してください。			記入しないでください。	
	免震・制振部材					
	その他					

- (注意) 1 ※印のある欄は、記入しないでください。
2 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書等が整合しているか十分確認して記入してください。

型枠の工法を記入してください。在来（合板を使用しているもの）・PCa・CFT等

該当するものに☑をしてください。

		コンクリート使用材料及び施工												
		<input type="checkbox"/> 直接基礎 { <input type="checkbox"/> ベタ基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> 独立基礎 <input checked="" type="checkbox"/> 杭基礎 <input type="checkbox"/> 打込み杭()、 <input type="checkbox"/> セメントミルク工法による埋込み杭、 <input type="checkbox"/> オールケーシング工法、 <input checked="" type="checkbox"/> アースドリル工法、 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション工法、 <input type="checkbox"/> 拡底杭工法()、 <input type="checkbox"/> その他()工法												
コンクリート 強度 (N/mm ²)	使用工法	在来				基準		☑JASS5(2015年版) <input type="checkbox"/> その他()						
	使用部位	杭		基礎		1階~3階		階~階		階~階		階~階		
	設計基準強度	30		33		30								
	使用工法							軽量()種		モルタル		グラウト		
	使用部位	階~階		階~階		階~階		階~階		階~階				
	設計基準強度													
塩害対策の有無		<input type="checkbox"/> 有(対策方法)				☑無		アルカリ骨材対策				試験成績書(無害判定)確認		
設計かぶ り厚さ (cm)	部位		柱		梁		床		耐力壁		非耐力壁		基礎・擁壁	
			屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内		
	土に接しない部分		3+2	3+1	3+2	3+1	2+2	2+1	3+2	3+1	2+2	2+1		
土に接する部分		4+1		4+1		4+1		4+1		4+1		6+1		
検査計画	検査担当者(工事施工者)氏名						〇〇 〇〇		工事監理者 又は係員氏名		立会検査 の有無		常駐 非常駐	
	検査項目	打込前	☑試練 ☑散水 ☑配筋 ☑かぶり厚さ						〇〇 〇〇		☑有 無		☑常・非	
		打込中	☑テストピース採取 ☑打込速度・順序 ☑締固め						〇〇 〇〇		☑有 無		☑常・非	
		打込後	☑養生方法 ☑養生温度 ☑打込欠陥						〇〇 〇〇		☑有 無		☑常・非	
	エア・スランプ試験等の代行業者名						〇〇検査サービス(株)							
	供試体の養生場所						東京都〇〇市〇-〇-〇 〇〇建材センター(株) 標準養生							
構造体コンクリート試験機関名						36N/mm ² 以下の場合 〇〇建材センター(株)××試験室 都登録 試A 第 〇〇-(Δ)-××号 36N/mm ² 超の場合 〇〇建材センター(株)△△試験室 都登録 試B 第 〇〇-(□)-××号								
打ち込み欠陥部の検査方法等						目視及び打診にて確認								
鉄筋使用材料及び														
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()				
	使用径	D 10 ~D 16		D 19 ~D 25		D 29 ~D 35		D ~D		D ~				
施工	継手種類	圧接継手				機械式継手				溶接継手		重ね継手(その他)		
	使用箇所	基礎・柱主筋				基礎梁				スラブ・壁				
	継手工法名(溶接材料)					〇〇ジョイント								
	継手施工会社(優良圧接業者)	(株)〇〇圧接				□□(株)								
	S A 級 継手					有・無								
	A 級 継手	☑有・無				☑有・無				有・無				
	技量確認・施工前試験	有		無		有								
	冷間直角カッターの使用	有		有										
	外観検査(%)			100		100								
	引張試験のみ(箇所/ロット)			5/1										
試験・検査	超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)		30		6									
	引張試験併用		有		無									
	引張試験機関名		〇〇建材センター(株)××試験						都登録 試A 第 〇〇-(Δ)-××号					
	非破壊検査機関名		〇〇検査(株)						都登録 筋 第 〇〇-(Δ)-××号					
梁貫通口補強	補強方法		☑有		☑在来工法		☑既製品(〇〇工法 認定番号:〇〇〇)				□無			
	構造検討		☑有		□無									
	使用部位		基礎梁:既製品(〇〇工法)		地上階の梁:在来工法									

東京都知事登録試験機関から選定してください。

記入漏れが多いので注意してください。

東京都知事登録試験機関から選定してください。

東京都鉄筋継手検査機関から選定してください。

コンクリートの設計及び仕様による条件

番号	a 打込箇所	※1	設計基準強度 (N/mm ²)	強度管理材齢 (日)	生 工 コ 場 名	セメントの種類	単位セメント 量(kg/m ³)	スランブ スランブフロー(cm)
		コンクリート の種類1	品質基準強度 (N/mm ²)	養生方法		骨材の産地	水セメント比 (%)	※6 混和剤の種類
枝番	b 打設期間 c 適用期間	※2	呼び強度 (調合管理強 度)	判定基準強度 (N/mm ²)※3	※4	コンクリート 温度(°C)※5	空 気 量 (%)	混 和 剤
1	杭 R3.0.0 ~ R3.0.0 (0.0 ~ 0.0)	普通	30	28	A	N	360	18
		水中	30	標準		神奈川 千葉・埼玉	49.5	高性能 AE 減水剤 (標準型)
			33	33		-	4.5	ポゾリス 70 他
2	基礎 R3.0.0 ~ R3.0.0 (0.0 ~ 0.0)	普通	30	30	A	N	358	18
		マスコン	30	標準		神奈川 千葉・埼玉	52.1	高性能 AE 減水剤 (標準型)
			33	33		35°C以下	4.5	フローリック S 他
3	1F 立上り ~ 2F 床 R3.0.0 ~ R3.0.0 (0.0 ~ 0.0)	普通	39	28	A	N	495	18
		通常	39	標準		神奈川 千葉・埼玉	45.9	高性能 AE 減水剤 (標準型)
			33	33		-	4.5	チューポール EX 他
打込箇所・打設期間・適用期間を3段に分けて記入してください。 打設期間が適用期間内であることを確認してください。						骨材の産地が複数ある場合は、 全て記入してください。		
10	5F 立上り ~ 6F 床 R3.0.0 ~ R3.0.0 (0.0 ~ 0.0)	普通	36	28	A	N	367	18
		暑中	36	現水		神奈川 千葉・埼玉	49.8	高性能 AE 減水剤 (標準型)
			42	42		-	4.5	チューポール NR 他
11	6F 立上り ~ 7F 床 R3.0.0 ~ R3.0.0 (0.0 ~ 0.0)	普通	36	28	A	N	357	18
		暑中	36	現水		神奈川 千葉・埼玉	50.1	高性能 AE 減水剤 (遅延型)
			42	42		35°C以下	4.5	チューポール NR 他
配合計画書に従って、コンクリートの種類を記入してください(夏季配合と暑中コンクリートは異なります)。						コンクリートの種類が、暑中・マスコン・高強度・高流動の場合は、予定温度を記入してください。		
20	0F 立上り ~ 0F 床 R3.0.0 ~ R3.0.0 (0.0 ~ 0.0)	普通	30	28	B	N	352	18
		通常	30	現水		千葉・高知	47.1	高性能 AE 減水剤 (標準型)
			33	33		-	4.5	チューポール EX 他
21	0F 立上り ~ 0F 床 R3.0.0 ~ R3.0.0 (0.0 ~ 0.0)	普通	30	28	B	N	350	18
		通常	30	現水		千葉・高知	45.8	高性能 AE 減水剤 (標準型)
			33	33		-	4.5	チューポール EX 他
						一つの打設箇所に対して複数の生コン工場の候補がある場合は、工場ごとにその2、その3を作成してください。		

(注意) ※1 から ※6 までについては、その 4 を参照のこと。

コンクリート試験計画及び鉄筋試験・検査計画一覧

番号	打込箇所	打込予定年月日 (年 月 日)	コンクリート圧縮 試験回数 ※7	※4 生コン工場名	番号	鉄筋接合箇所 (継手種類)	継手予定年月日 (年 月 日)	鉄筋引張 試験回数 ※9	超音波探傷・測定検査 (箇所/ロット)
枝番		打込予定数量 (m ³)	うち防災センター 試験回数	※8 圧送計画	枝番		継手予定数量	うち防災センター 試験回数	うち引張試験併用 (箇所/ロット)
1	杭	R3.0.0 ~ R3.0.0	9	A	1	地中梁	R3.0.0 ~ R3.0.0	4	30本/1ロット
		1,260	0	a			630	0	5本/1ロット
2	地中梁	R3.0.0 ~ R3.0.0	4	A	2	B1F 梁	R3.0.0 ~ R3.0.0	2	30本/1ロット
		520	0	a			310	0	0
3	1F 立上り ~2F 立上り	R3.0.0 ~ R3.0.0	3	A	3	1 F 柱	R3.0.0 ~ R3.0.0	3	0
		440	2	a			420	0	0
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: 45%;"> コンクリートの圧縮試験回数は、150 m³(高強度は 300 m³)ごとに 1 回以上であることを確認してください。 </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; width: 45%;"> 鉄筋の引張試験回数は、200 箇所ごとに 1 回以上であることを確認してください。 </div> </div>									
合計		打込予定数量 〇〇,〇〇〇m³	コンクリート圧縮試験回数 〇 回		合計	継手予定数量 〇,〇〇〇箇所	鉄筋引張試験回数 〇 回	超音波探傷・測定検査 〇本/ロット	
			うち防災センター試験回数 〇 回				うち防災センター試験回数 〇 回	うち引張試験併用 〇本/ロット	
供試体試験 1回の試験のうち (告示第 1102 号)	28 日 日 日	3 本 本 本	支柱早期除去用 部位(梁下・床下)		14 日 日	3 本 本	PS 導 入用		日 本

(注意) 1 防災センターとは、(公財)東京都防災・建築まちづくりセンターのことをいう。

2 ※4 及び ※7 から ※9 までについては、その 4 を参照のこと。

レディーミクストコンクリート工場一覧

A	工場名称	〇〇建材(株) □□工場		B	工場名称	〇〇コンクリート(株) □□工場	
	JIS 認証番号	AB1234			JIS 認証番号	CD5678	
	認証品目	普通・高強度	運搬時間 30分~40分		認証品目	普通・軽量	運搬時間 50分~60分
	水の種類	上水道水			水の種類	工業用水	
C	工場名称			D	工場名称		
	JIS 認証番号				JIS 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
E	工場名称			F	工場名称		
	JIS 認証番号				JIS 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
G	工場名称			H	工場名称		
	JIS 認証番号				JIS 認証番号		
	認証品目		運搬時間		認証品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		

コンクリート圧送ポンプ一覧

a	型番	120-〇〇			b	型番	P-〇〇		
	性能	12.5 cm	100 m ³ /h	5.0 N/mm ²		性能	12.5 cm	90 m ³ /h	5.0 N/mm ²
c	型番				d	型番			
	性能	cm	m ³ /h	N/mm ²		性能	cm	m ³ /h	N/mm ²

- (注意) 1 コンクリートの使用骨材による種類を記入する。
 2 コンクリートの使用材料・施工条件・要求性能などによる種類(通常、寒中、暑中、軽量、流動化、高流動、高強度、マスコン、プレストレスト、水中、水密)を記入する。
 3 高強度コンクリートの場合は、Fq+mSnのそれぞれの項の値を()内に別途記入する。
 4 生コン工場は、その4による記号で表示する。
 5 高強度・マスコン・暑中・寒中コンクリートについては、必ず記入する。
 6 混和剤の商品名及び種類(AE剤、減水剤、AE減水剤、標準形、促進形、遅延形)などを記入する。AE減水剤等の化学混和剤以外の混和剤を使用する場合は、塩化物量が分かるものを添付する。
 (混和剤の種類によっては、塩化物試験に有害イオンとして作用するものがあるので、注意すること。)
 7 コンクリートの圧縮試験回数は、打込工区ごと、打込日ごと、かつ150m³(高強度はJASS-2003, 2009及び2015は300 m³)に1回で適当な間隔をおいた3台のトラックアジテータから1台につき3個ずつ計9個以上)又はその端数ごとに1回以上とする。
 8 圧送計画は、その4による記号で表示する。
 9 鉄筋の引張試験回数は、200箇所又はその端数ごとに1回以上とする。